

2022年度第5回 現代文化人類学会（旧早稲田文化人類学会）定例研究会

発表者：吉田航太（東京大学大学院総合文化研究科博士課程）

日時：2022年12月19日（月）18時15分～20時15分

場所：Zoomによるオンライン開催

\* どなたでもご参加いただけます。ただし、オンライン開催のため、事前申込が必要です。

12月16日（金）までに下記のGoogleフォームを通じて申し込みください。12月17日（土）以降、参加申込をされた方のみ、ZoomのURLをお送りします。

<https://forms.gle/eMuyKaMTDFCYeEeS7>

タイトル：

住民参加のパラドックス——インドネシアのゴミ問題における住民参加型開発の「成功」をめぐって

要旨：

本報告では、インドネシアで近年盛んに行われている住民参加型の廃棄物処理の取り組みを事例に、廃棄物というモノの性質がもたらす住民参加の「成功」と逆説的な自己目的化を論じる。

まず、科学技術社会論の市民参加についての議論を援用しつつ、住民参加型開発の成否を、参加する「住民」という特定の実体がいかに生成されているのかという点から分析する観点を本報告は採ることを述べる。その上で先行研究では、ゴミに人々が無関心であるために「住民」が生成されにくいことが論じられてきたことを紹介する。

次に、インドネシア、特に発表者の調査地である東ジャワ州スラバヤ市で行われている住民参加型の廃棄物処理の事例を紹介し、インドネシア独自の状況（①ポストスハルト期という社会的背景、②住民参加型技術の開発、③環境コンテスト）によって住民参加が「成功」していることを論じる。

しかし、この「成功」は人々を組織化して「住民」を作ることが自己目的化することで成立しており、結果的には環境NGOや研究者などの住民参加を推進してきた専門家自身から批判を生んでいる。この「成功」のパラドックスの分析を通じて、ゴミと「住民」の間の矛盾とそれゆえの可能性を明らかにする。

お問い合わせ：

現代文化人類学会定例研究会ワーキンググループ

箕曲在弘

minoo [a] waseda.jp

\* [a]を@に変えて送信してください。